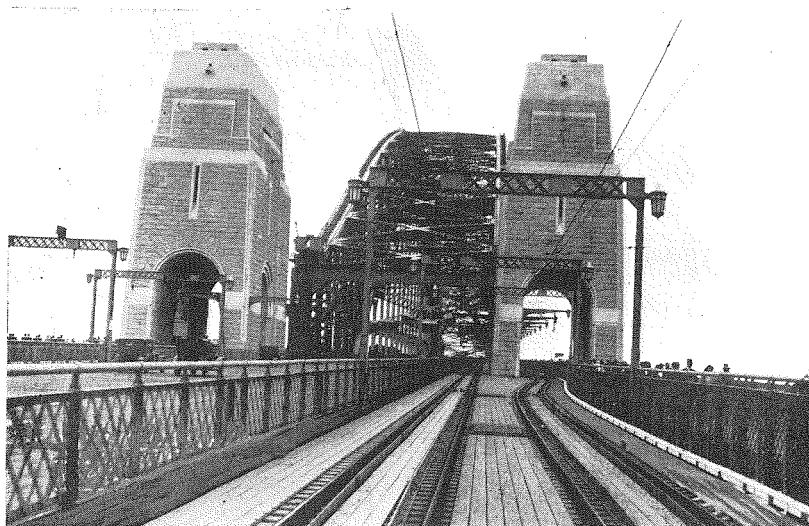
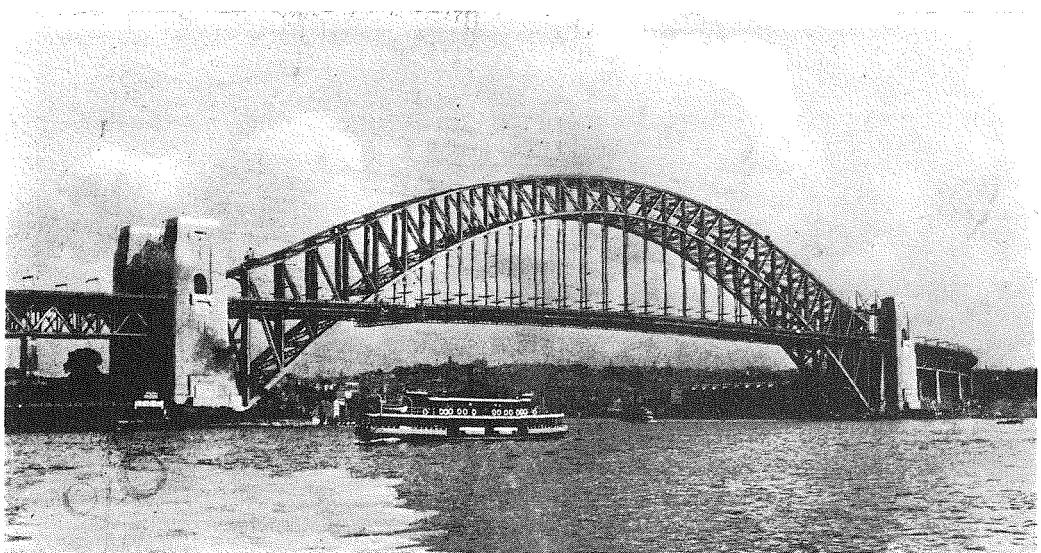


シドニー・ハーバー・ブリッヂ

ニューカレドニヤから歸つた小山田氏の土産





去る五月鐵嶺開発調査のため佛領ニューカレドニヤ島に向つた小山田二郎氏は約二ヶ月にわたる實地調査を遂げて去月歸朝した。調査の主目的は鐵嶺船積設備其他諸施設の設計準備の爲で、且下滯在中に蒐められた資料に依り實施設計を急いでゐるとの事である。ニューカレドニヤはシドニーの東北方約1,200海里に在る佛領の島で、面積形狀ともわが臺灣を縦に割つた半分に相當する。人口約5萬、内地人も約1,200人程居り、鐵嶺の豊富なる事宛も満洲撫順に於ける石炭の如きものがある由である。

寫眞は同氏の歸朝土産で、シドニーのバー・バー・プリツチ六景である。此橋は當時報じた如く1931年の開通に係り、其全長3,770呪、中央主徑間1,650呪のタイド拱橋で、幅員は160呪で、主道路が57ft、歩道兩側各10呪、之に市街電車線2線、鐵道2線を通じ、1時間に列車80と6,000の車馬、約40,000人の人間を通し得るさうである。使用鐵材總額50,300噸、内主徑間のみに使用した鐵材は37,000噸で、拱最高部は海面上440呪に聳え、シドニー灣頭に一大異彩を放つてゐる。

